

子

子集

六十七
編編編

~ 13
3696
6



秋 夕 夜 禊



十六編下

外題 常夜燈



為永春水補綴

十六編上

与一席画

春
た
ん

西
古
宅

十七編

下

後半春様



新

婚

補

病水春の作

十七編

上



芳虎画

春水作

新增補西國奇談
編八十

下

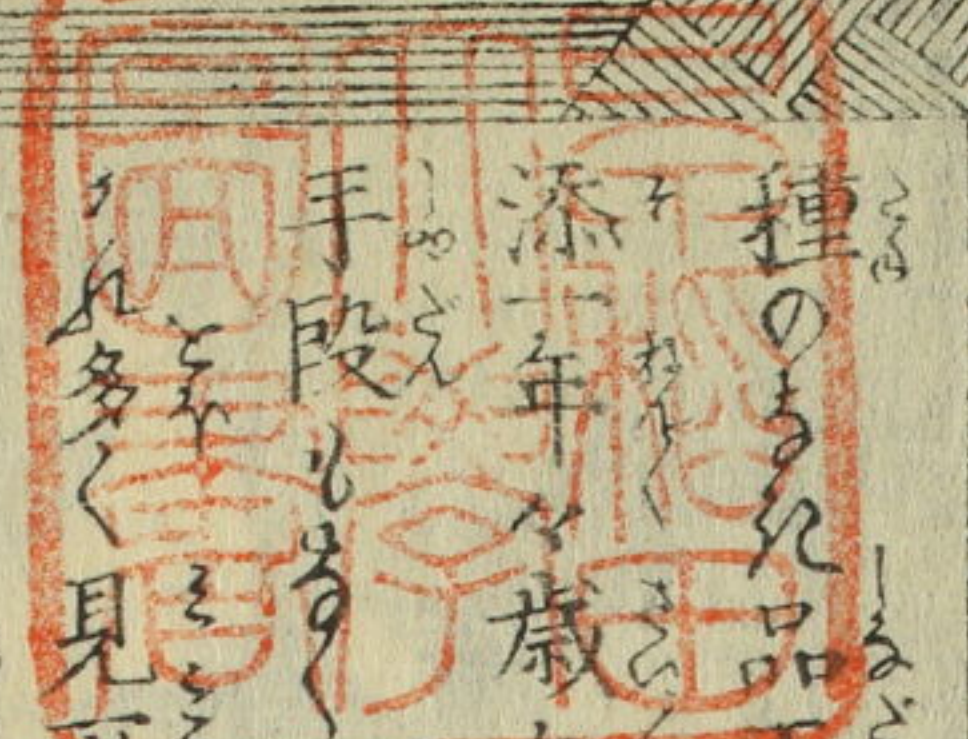
上



門 13
 3696
 6



志んぞう月
 さいらくさるん
 芽十八え下
 春の化
 一 虎中
 春成無事板



種のもれ品玉ハ。ほつり色ぬと言ふも。根もろも支に枝葉と
 添一年々歳々編枚茂きと。早晚も常盤ど珍らき。下花咲えん
 手段もきくほしく伸る枯桐夫之五目れと。うらとゆうく節
 多し。見所もれと。猶棄ゆいや看官の高評の弁を賜へ
 色バ。ほの埋木うらりも果は。とや詠めいあ〜ん〜ん枯
 木も山の賑ひひや花もき策子とさう〜木に。又此春ルちり
 を免〜。耶西国の物語りにさす

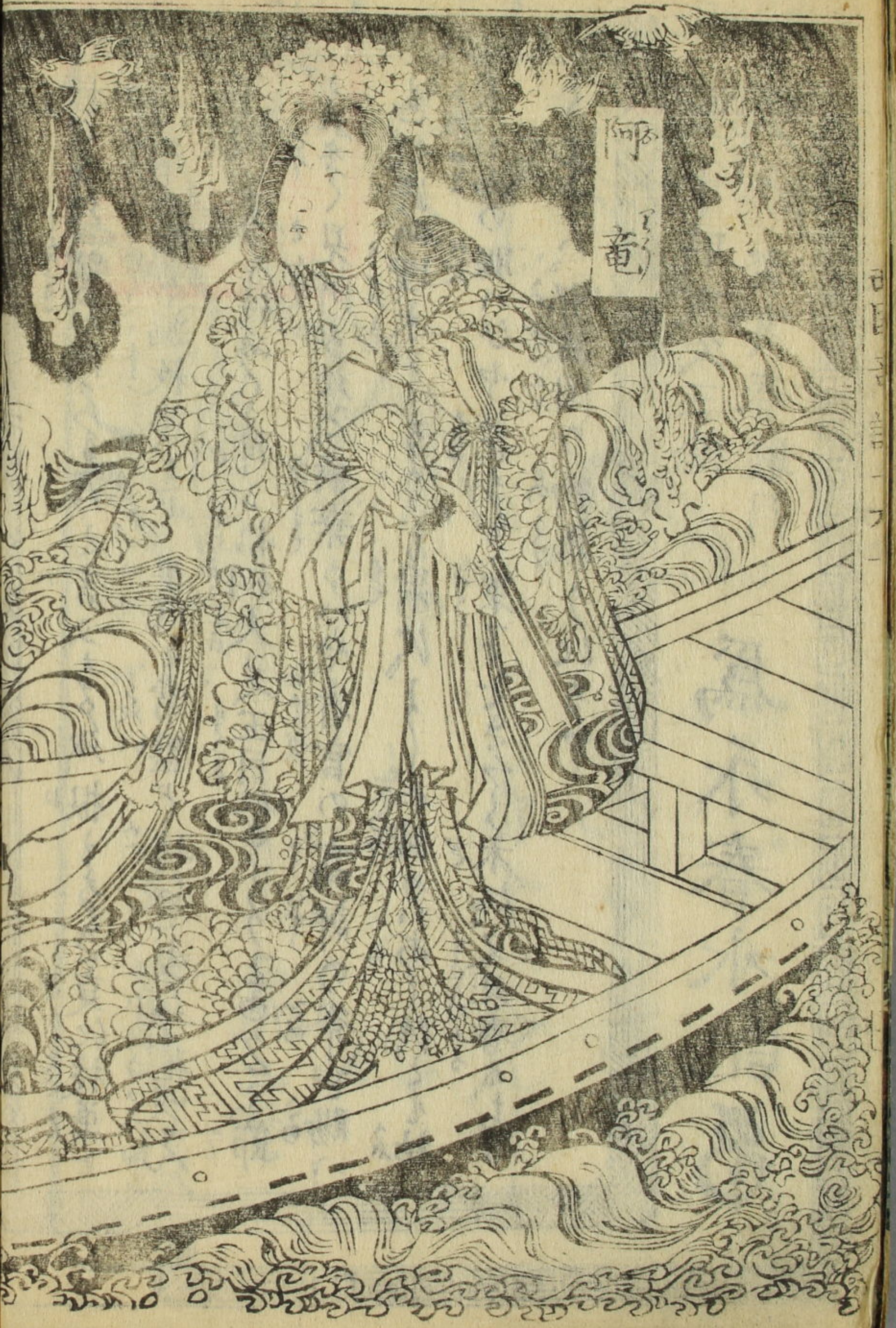
干時文久三稔
 癸亥春睦月

爲永春水記

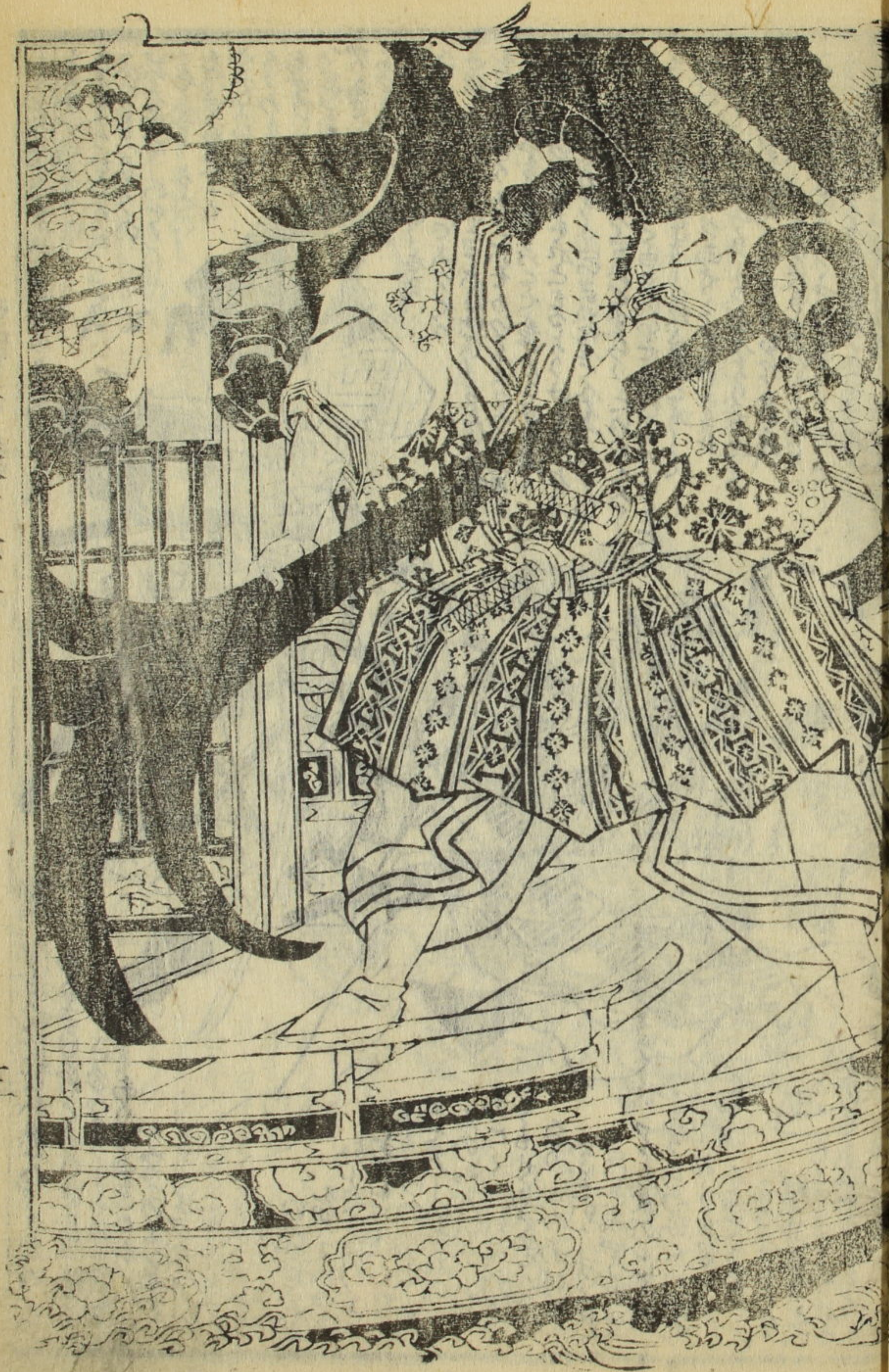
西国文可炎十上



赤松妖齊



阿童



田国喜、談十六上



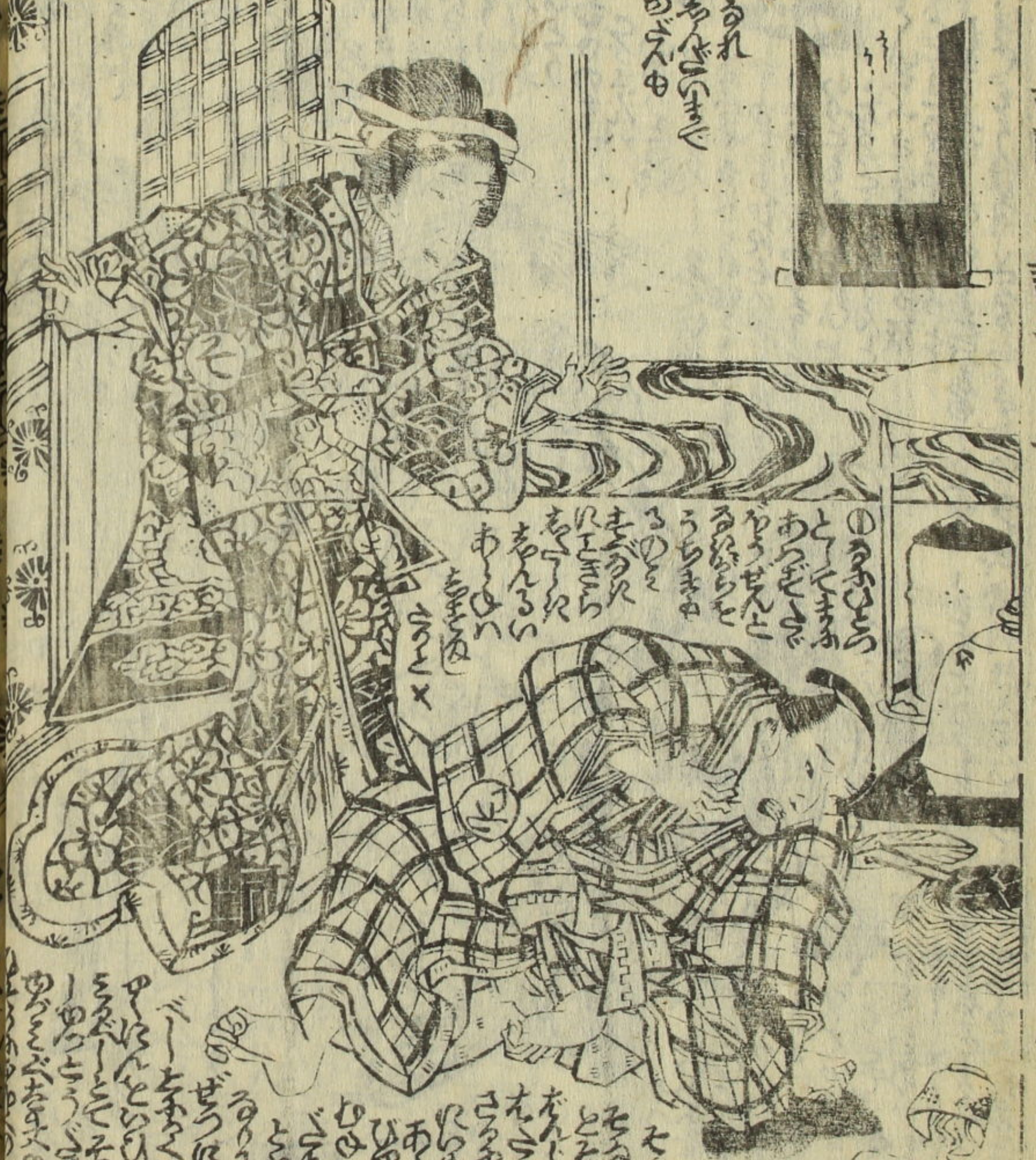
木邑龍太郎

田国喜、談十六上

E

ひそかにしる
あはれなる
とてあはれ
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま

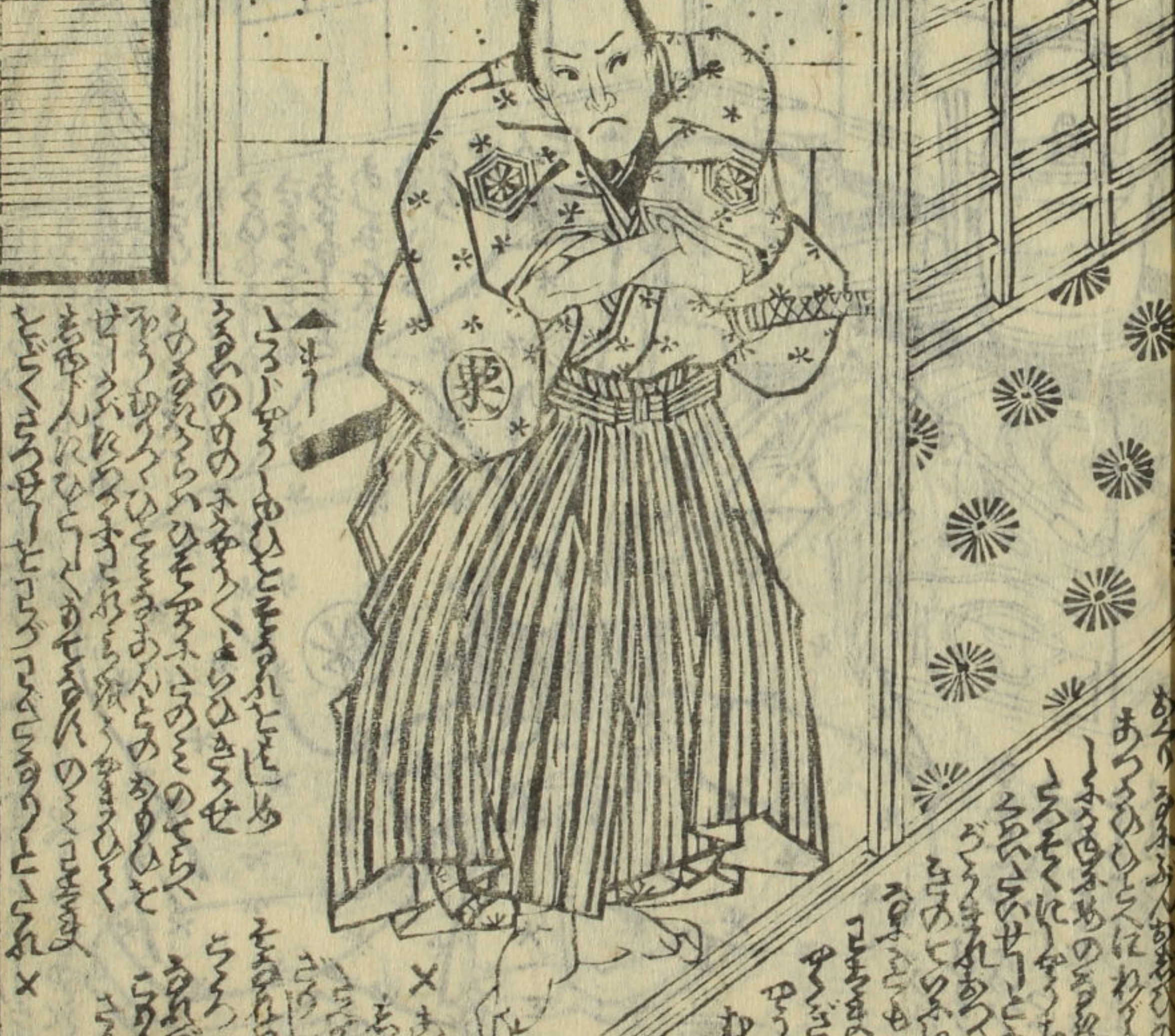
あはれなる
とてあはれ
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま



あはれなる
とてあはれ
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま

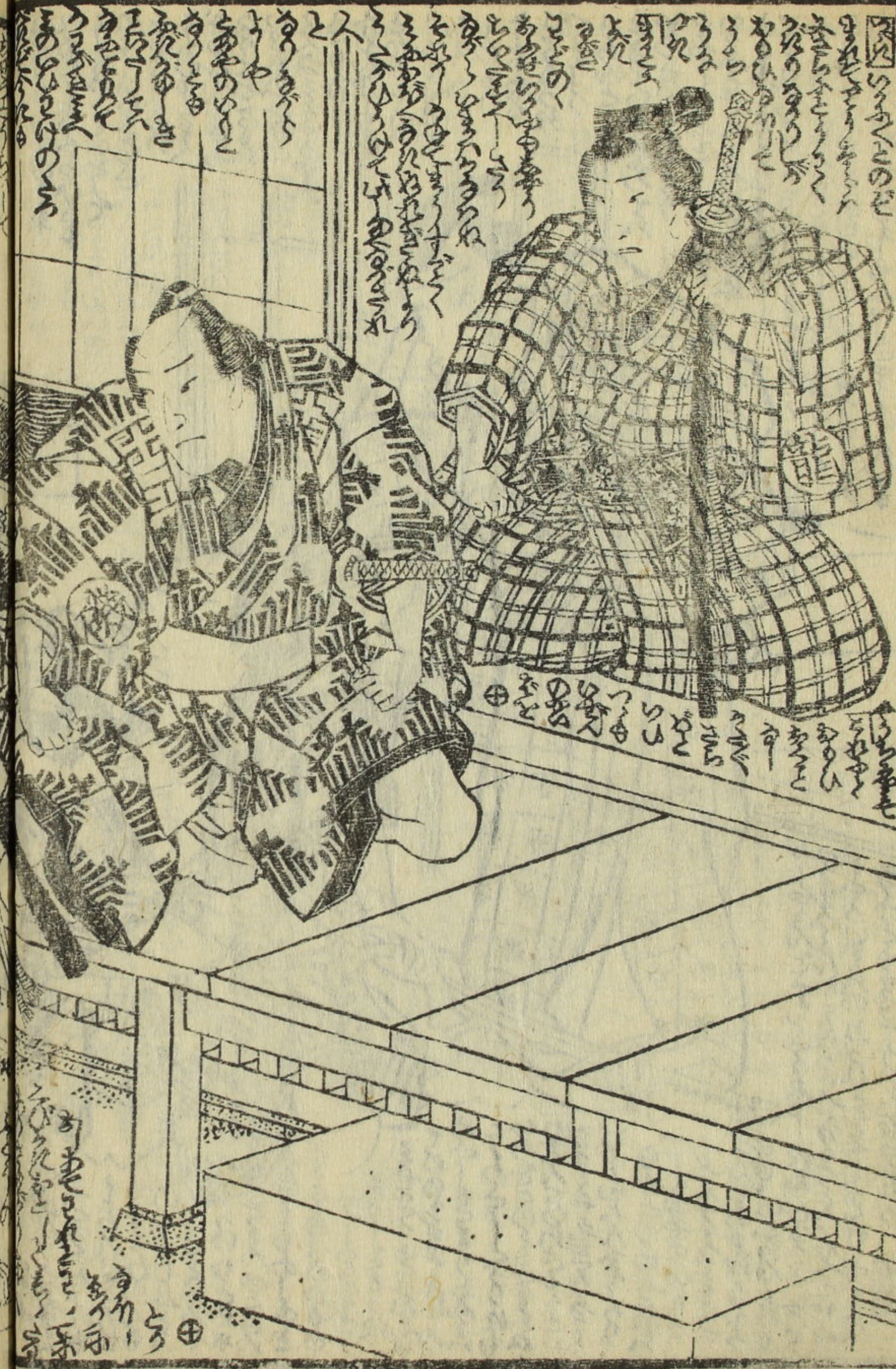
あはれなる
とてあはれ
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま

あはれなる
とてあはれ
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま



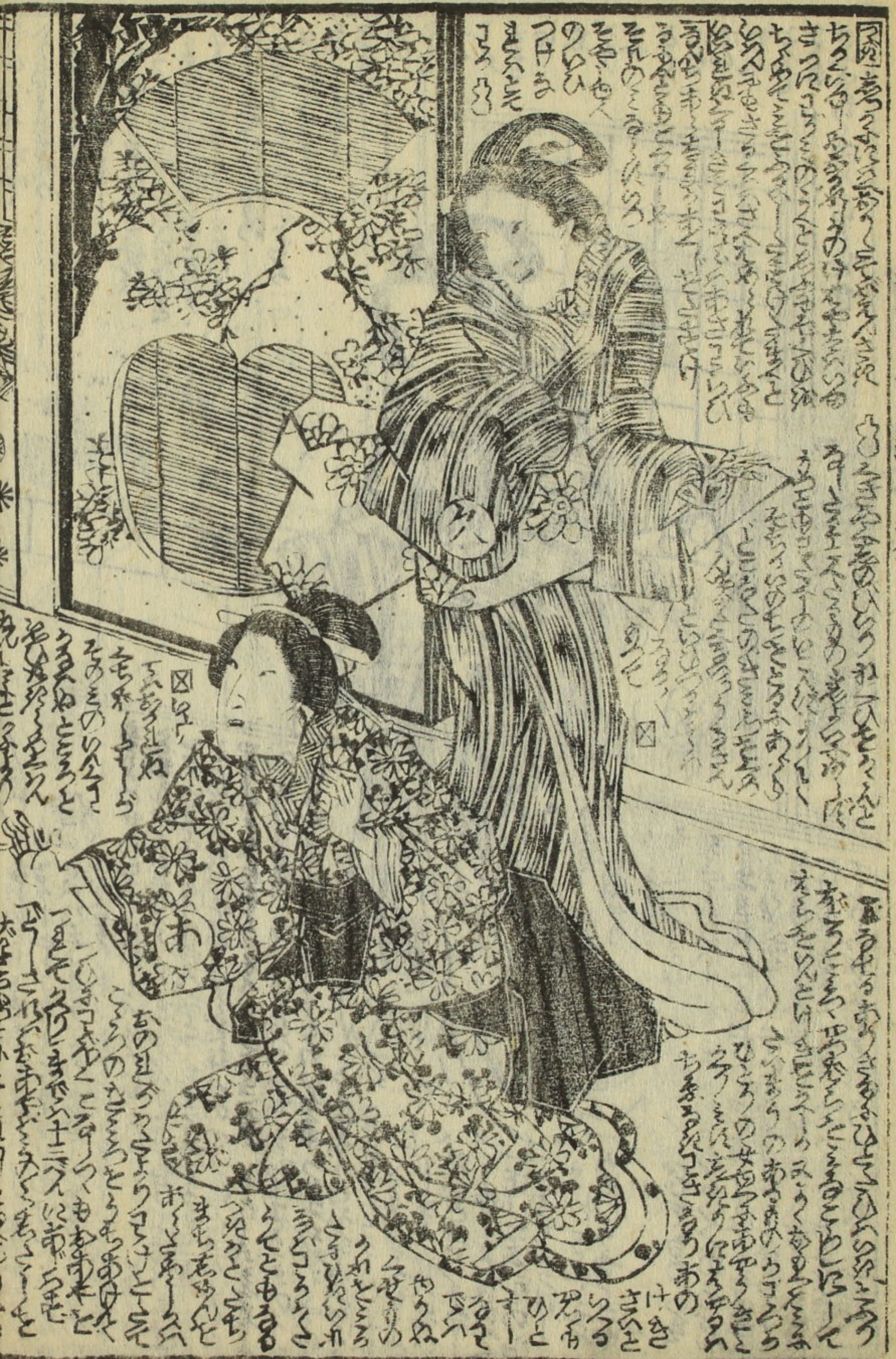
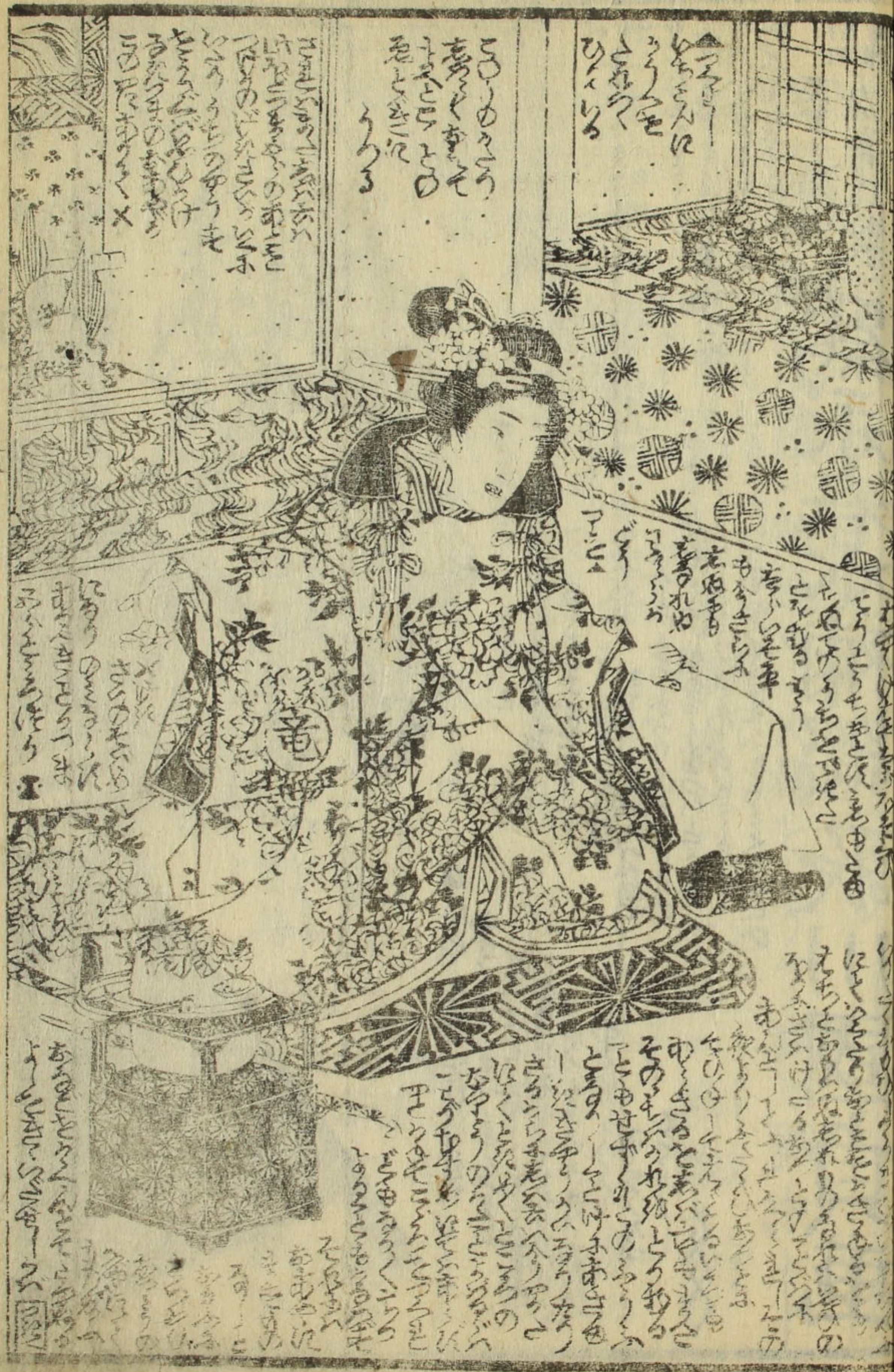
あはれなる
とてあはれ
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま
こゝろせむ
まろくうま





田園集 卷之十

田園集 卷之十



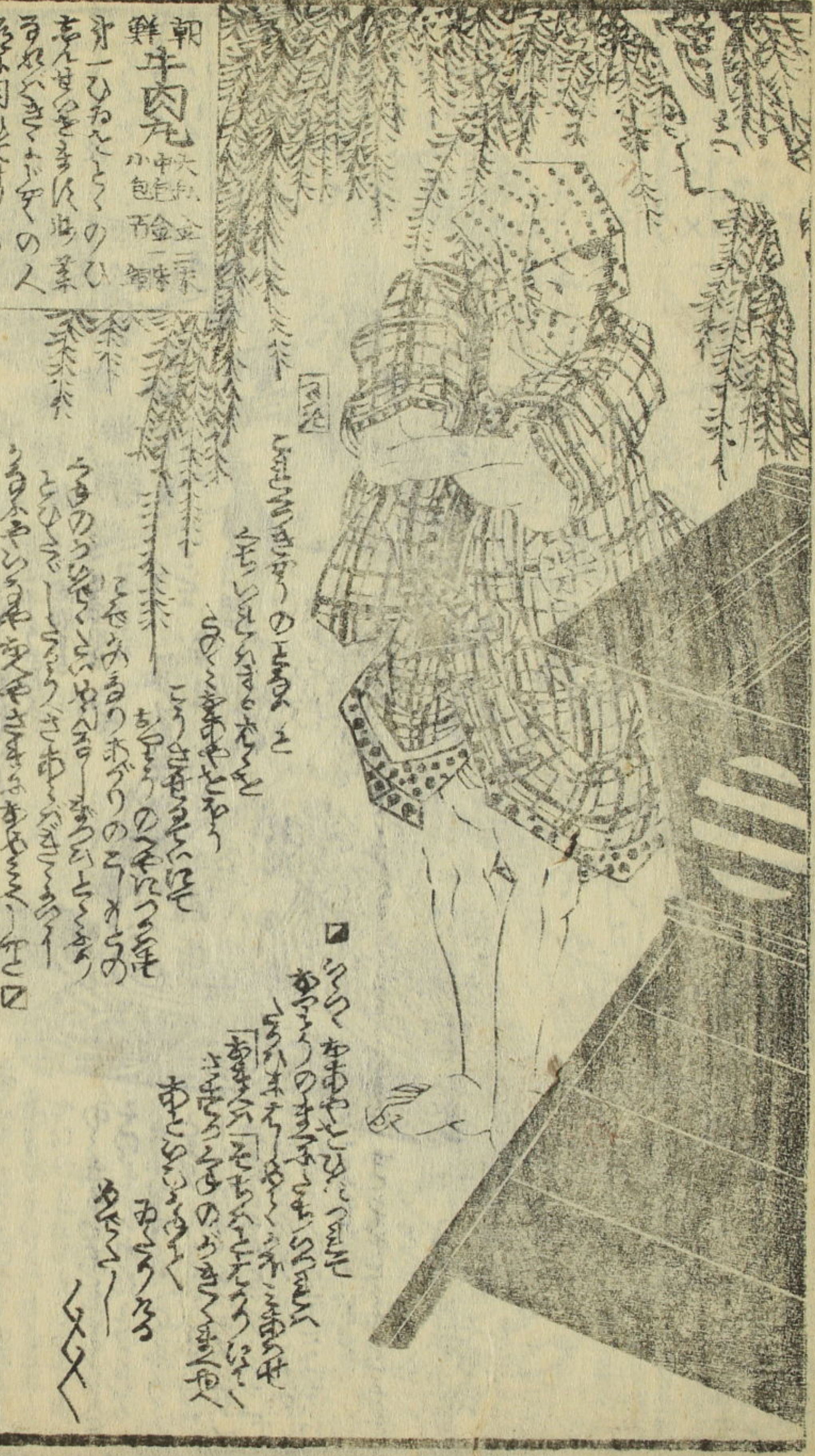
漢の倭の策子と讀ふ。暗愚の小人權とらうて威と國中
 恣ふもさる。順孝は才子零落し。不時の横難も苦む
 ある。おほは薄命とも天命とをわ。天多し。私ゆる。衆俗
 是より。怒りさる。不善に入る者。勸む。開と。叙氏
 と。教戒し。三世業因や。説もの。おほ。説宙遠も。人
 婦幼の耳。入易。後所と。裨史小説。巧拙。差河
 勸懲。勸懲。捷徑。稚童等。先。遠九三草紙。次
 看。身と省。の一助。と。おほ。ん。

戊辰新春吉且

爲永春水記

朝鮮牛肉丸
中包五餅
片一ひおん。のひ
 せんせのまひ。あま
 ぶれ。まひ。の
 ぶ。ひ。

爲永春水補綴歌川國貞重



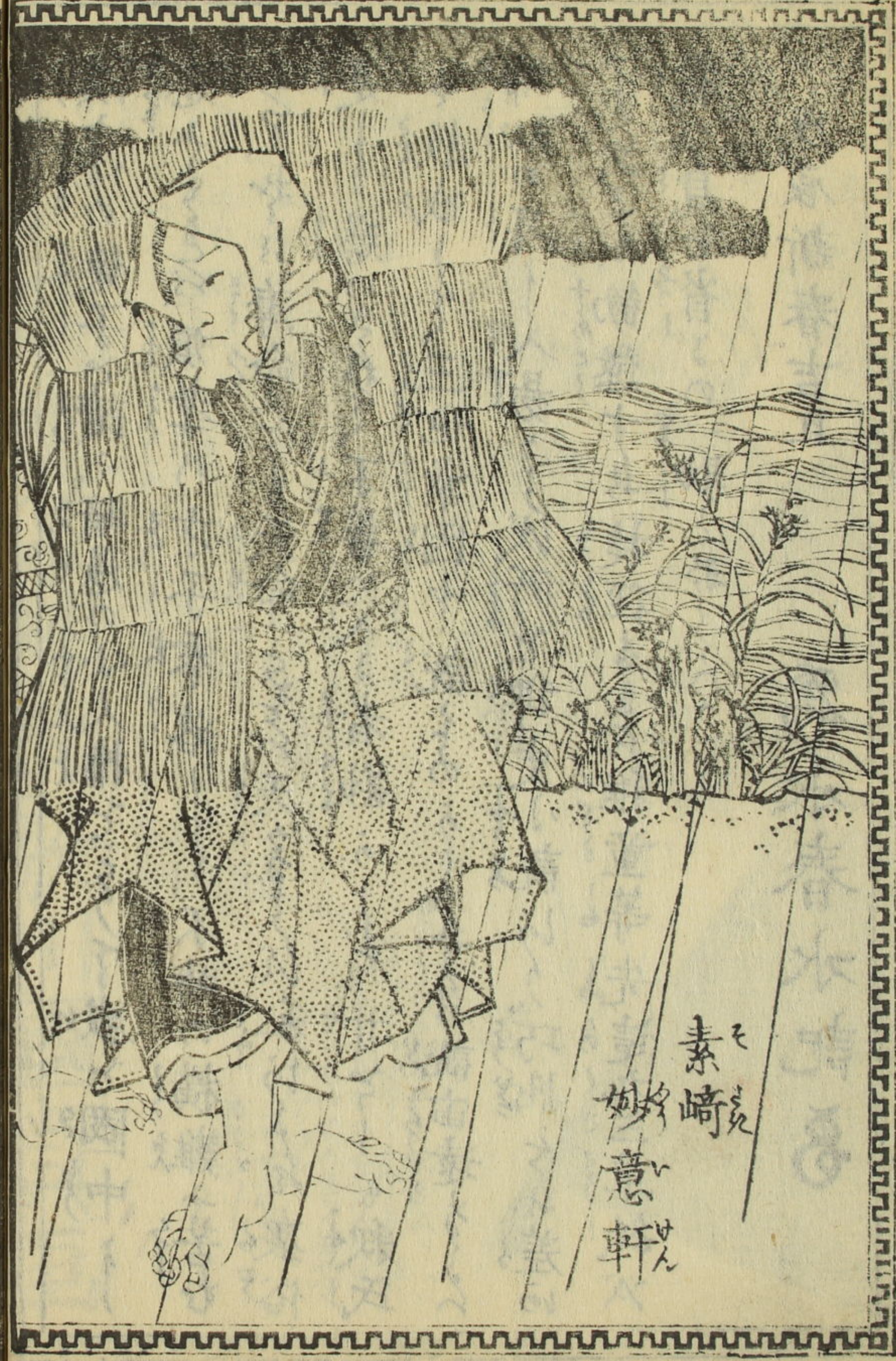
朝鮮牛肉丸
中包五餅
片一ひおん。のひ
 せんせのまひ。あま
 ぶれ。まひ。の
 ぶ。ひ。

下谷
 深青氏製

爲永春水補綴
 歌川國貞重



鷺塚
爪五郎



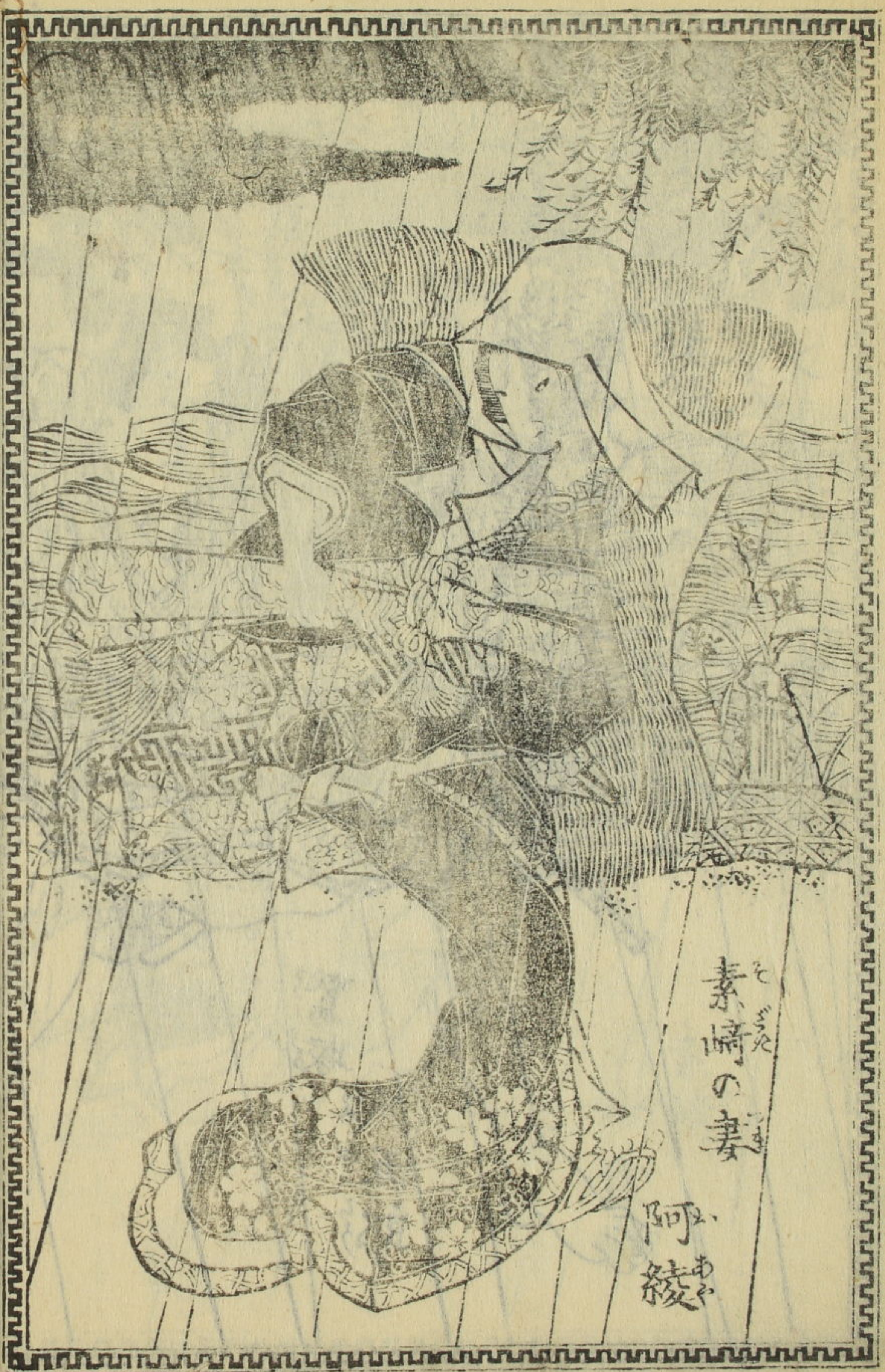
素崎
妙意軒

Handwritten text in the top left corner of the left page, arranged in vertical columns.



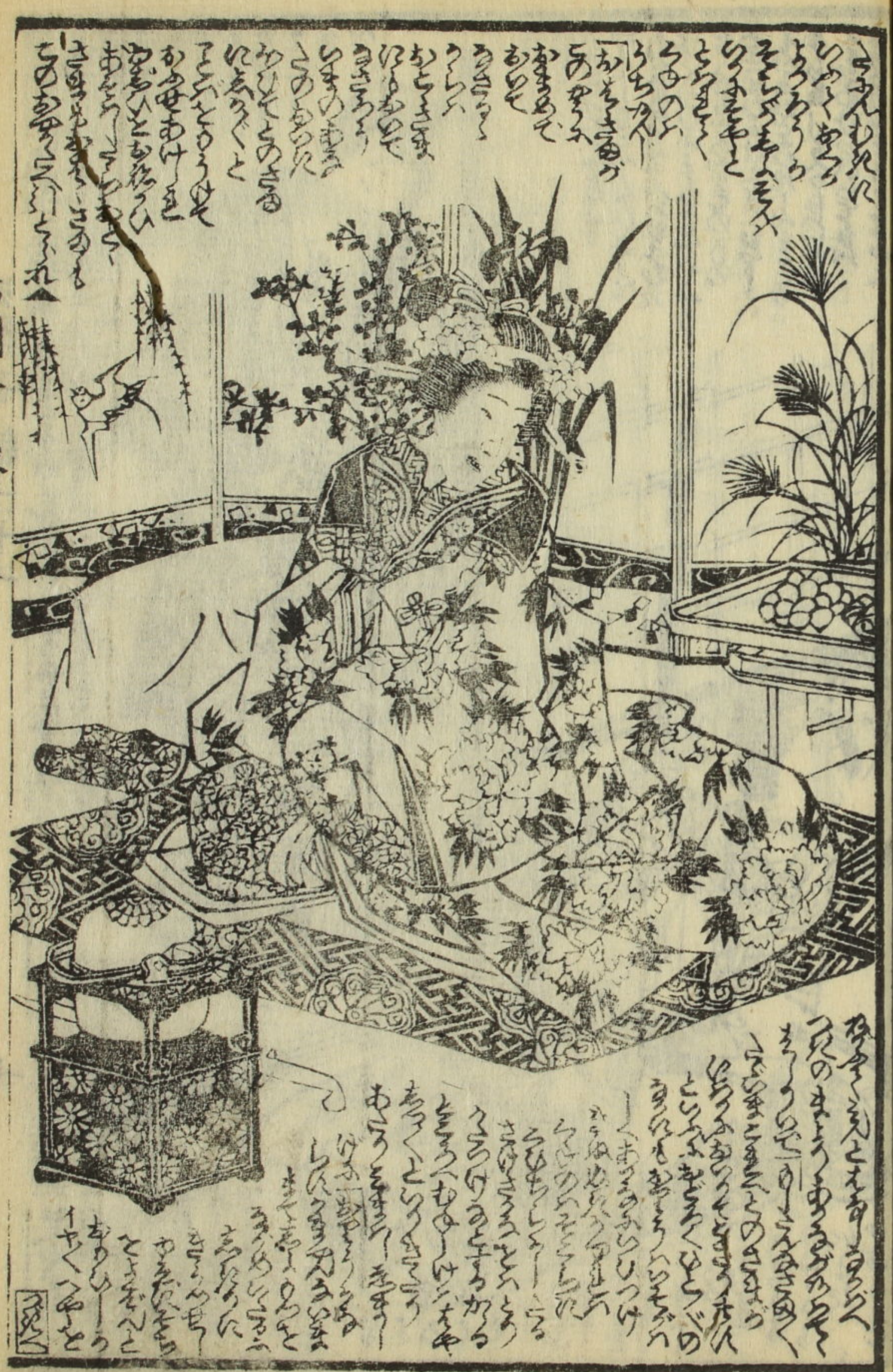
Handwritten text in the middle left section of the left page, positioned between the two figures.

Handwritten text in the bottom left corner of the left page, below the seated figure.



素崎の妻 (Suzaki no Tsuma)

阿綾 (Ari)



Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located at the top of the illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located at the bottom of the illustration.



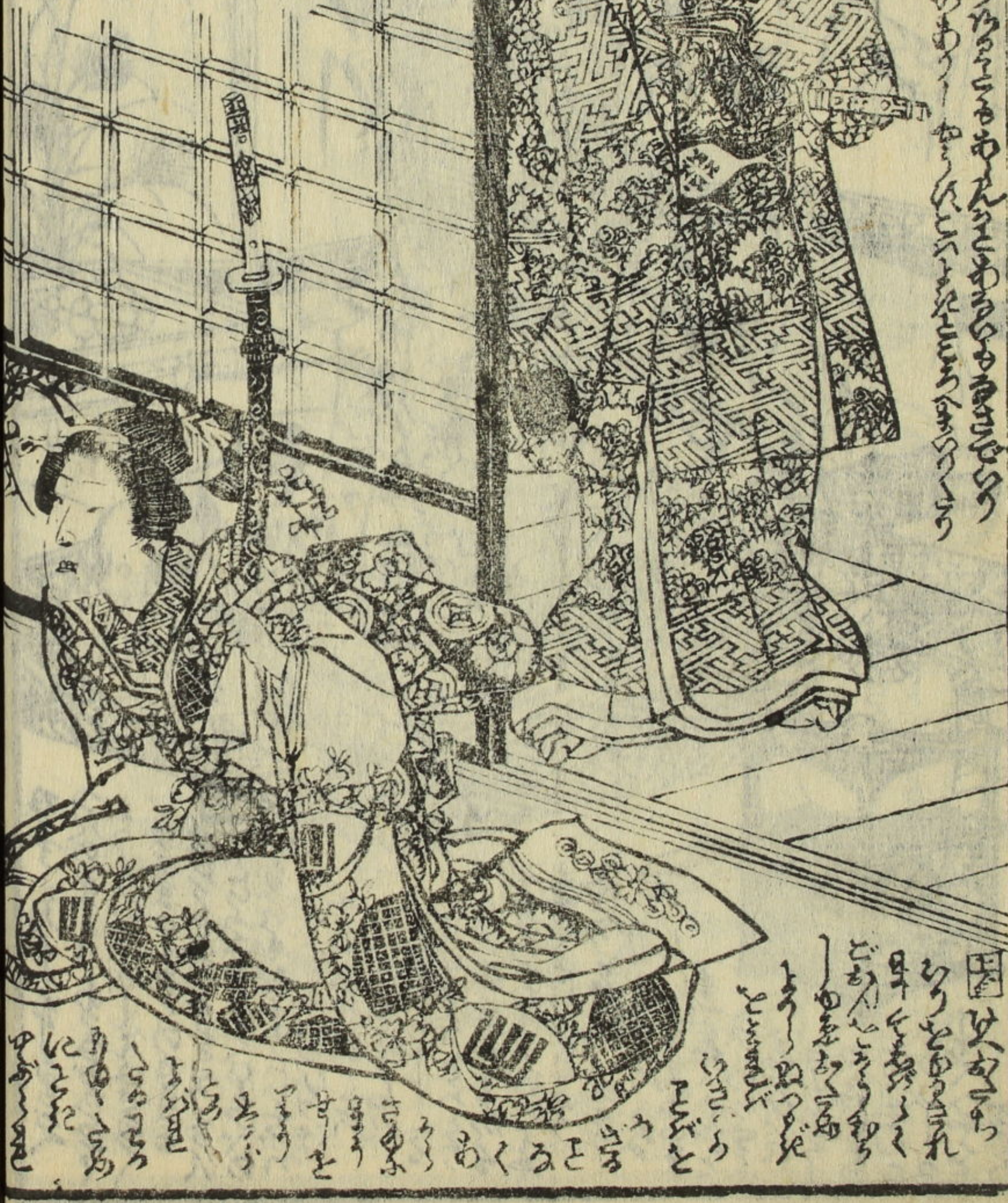
Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located at the top of the illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located at the bottom of the illustration.

夫の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは

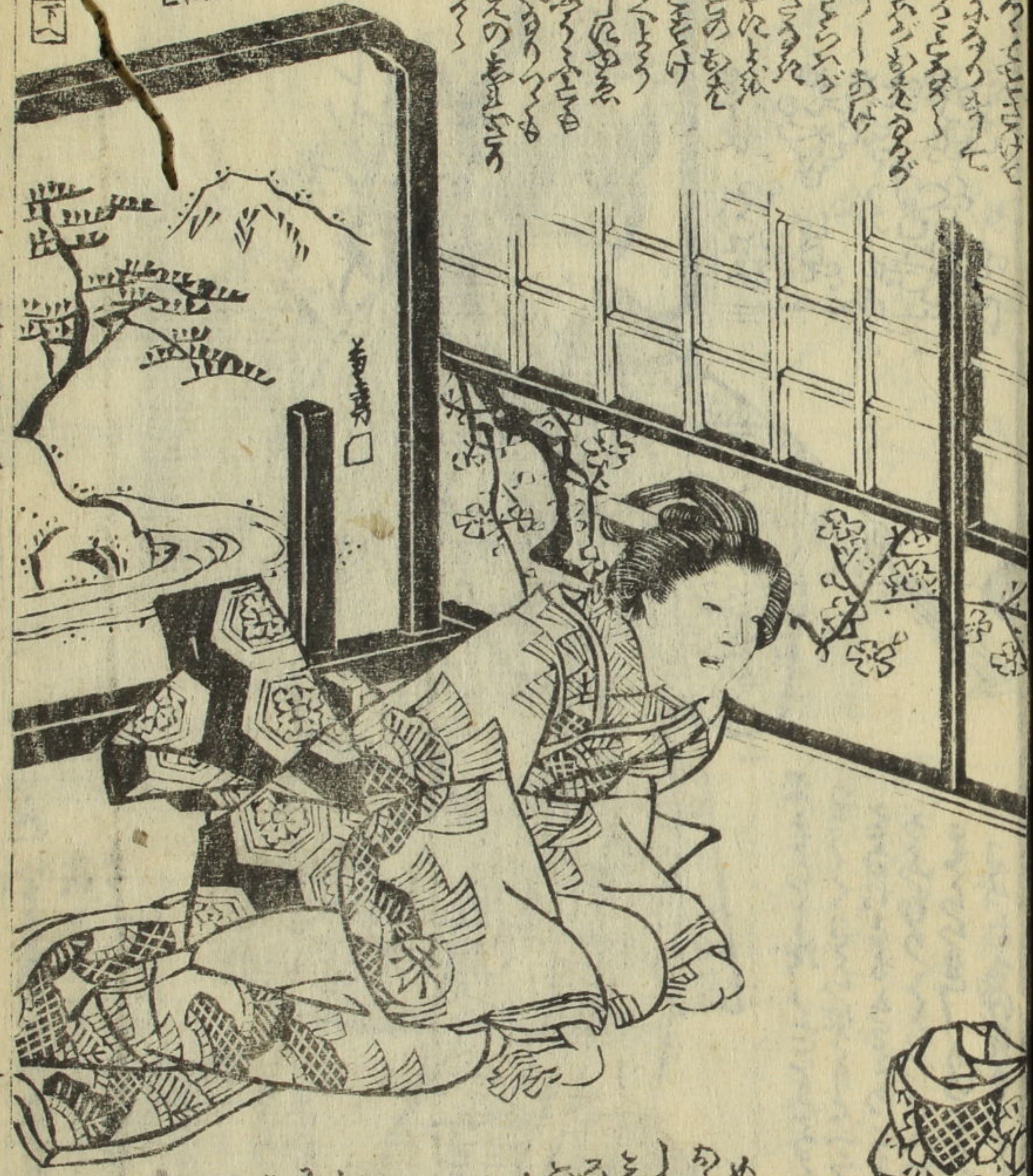


此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは



夫の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは

夫の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは



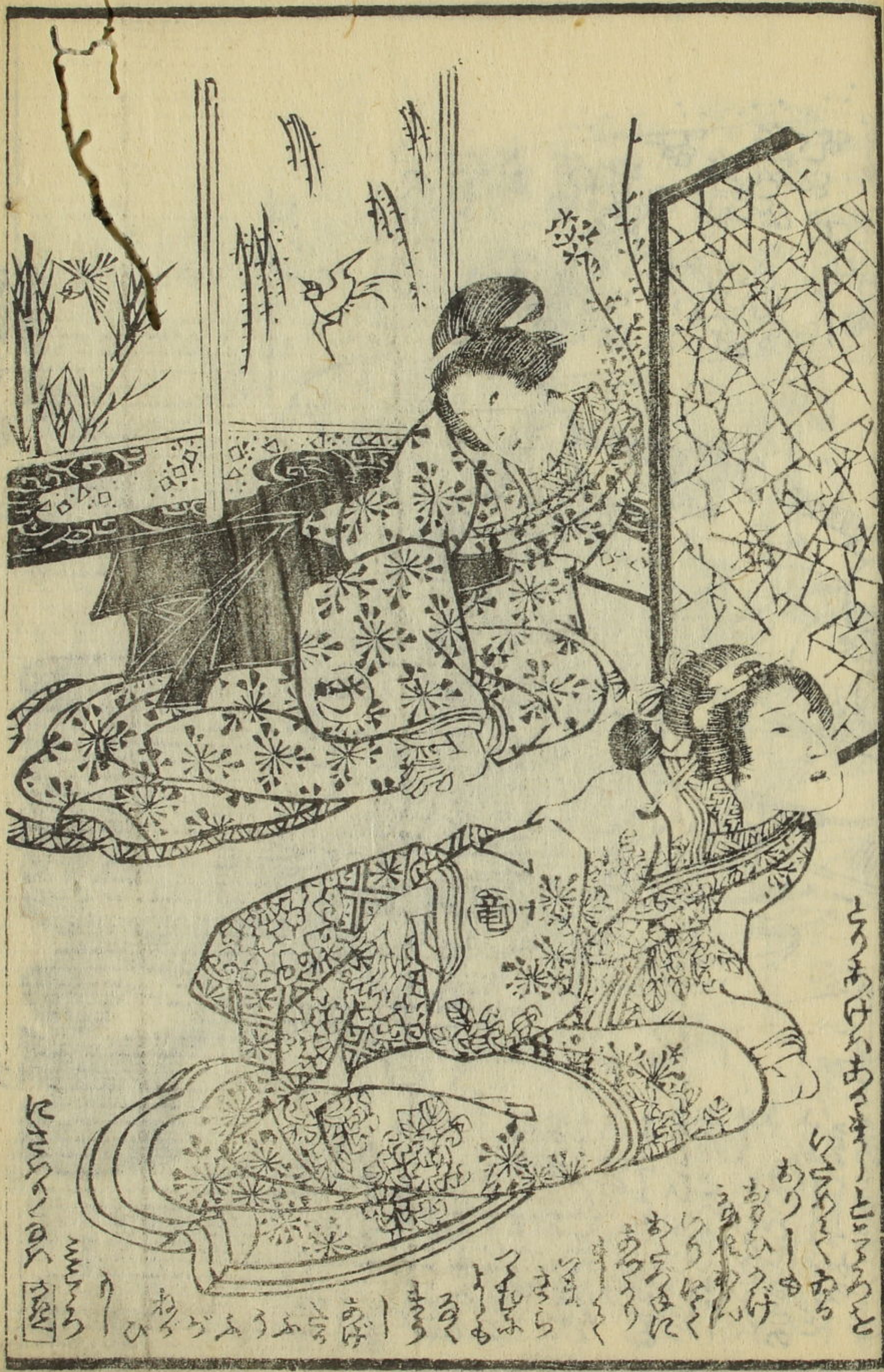
夫の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは
此の御座り申すは

田園抄 第十卷



おのれは
おのれは
おのれは

おのれは
おのれは



おのれは
おのれは
おのれは

おのれは
おのれは

おのれは
おのれは

おのれは
おのれは

おのれは
おのれは

おのれは
おのれは

おのれは
おのれは

芳虎画 春水作

三卷
 此の巻は芳虎の春水作の
 物語を記す。春水は芳虎の
 長男にして、幼少にして
 既に名士と稱せられたり。



三卷



三卷
 此の巻は芳虎の春水作の
 物語を記す。春水は芳虎の
 長男にして、幼少にして
 既に名士と稱せられたり。



三卷
 此の巻は芳虎の春水作の
 物語を記す。春水は芳虎の
 長男にして、幼少にして
 既に名士と稱せられたり。

三卷

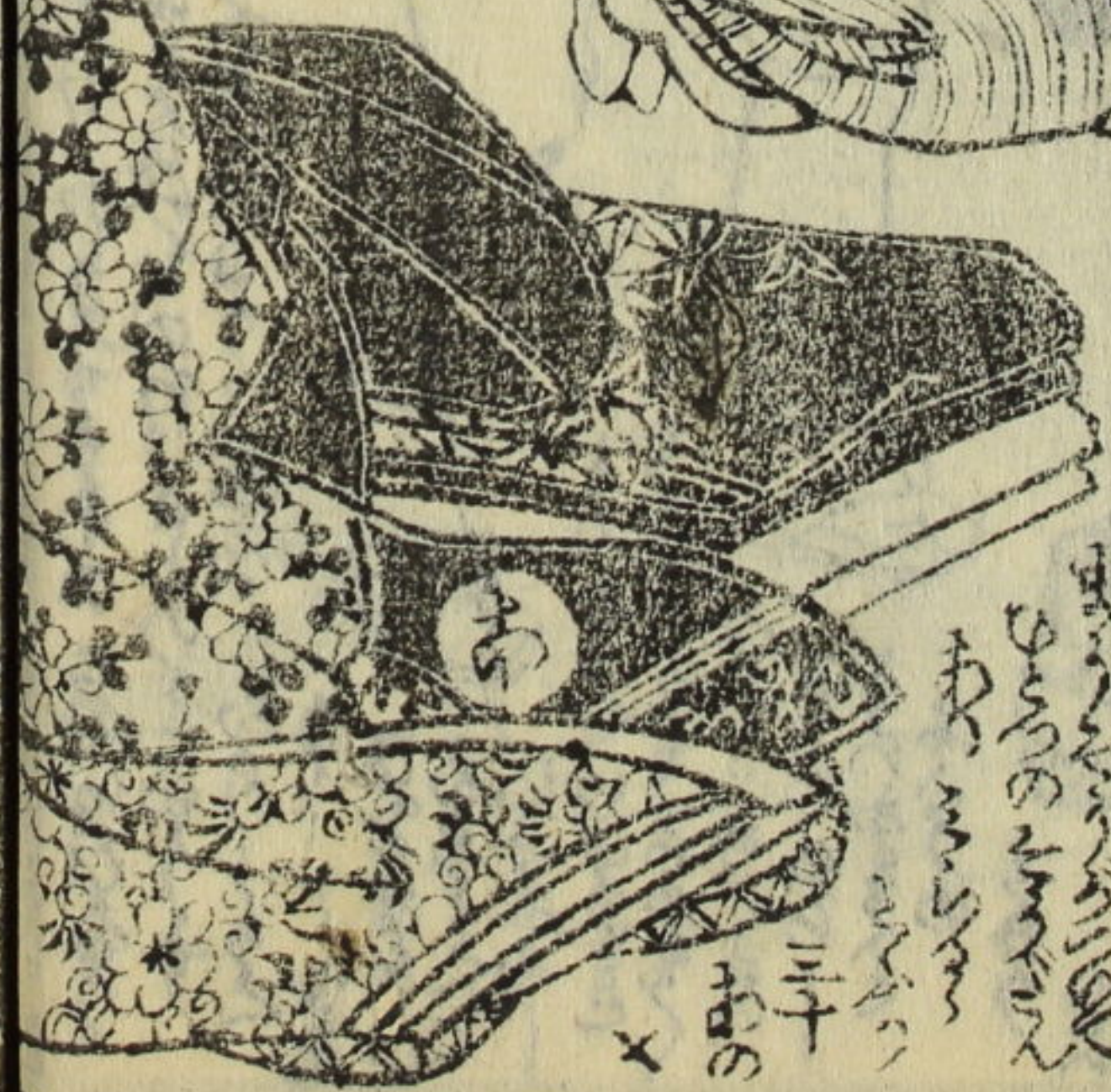
三卷

Handwritten text in the top right corner of the right page, likely a continuation of the narrative or a commentary on the scene.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, possibly describing the man's activity or the game he is playing.

Handwritten text in the top left corner of the right page, providing context or dialogue for the scene.



Handwritten text in the top left corner of the left page, continuing the narrative or dialogue.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, likely concluding the scene or providing further details.



西国奇談下

Handwritten text in cursive script, located at the top left of the page.

Handwritten text in cursive script, located at the top right of the page.

Handwritten text in cursive script, located at the bottom left of the page.

Handwritten text in cursive script, located at the bottom right of the page.

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

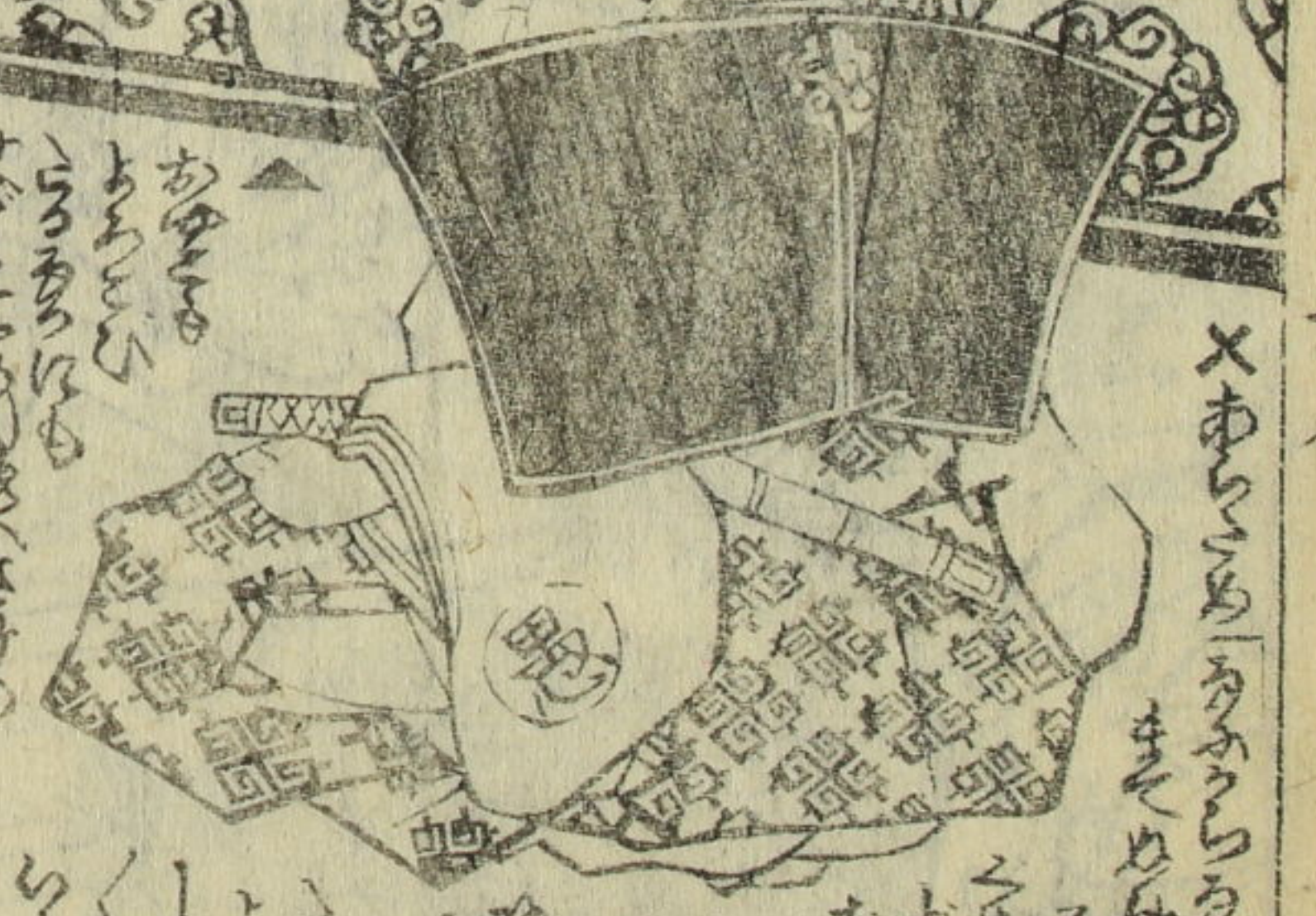


一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

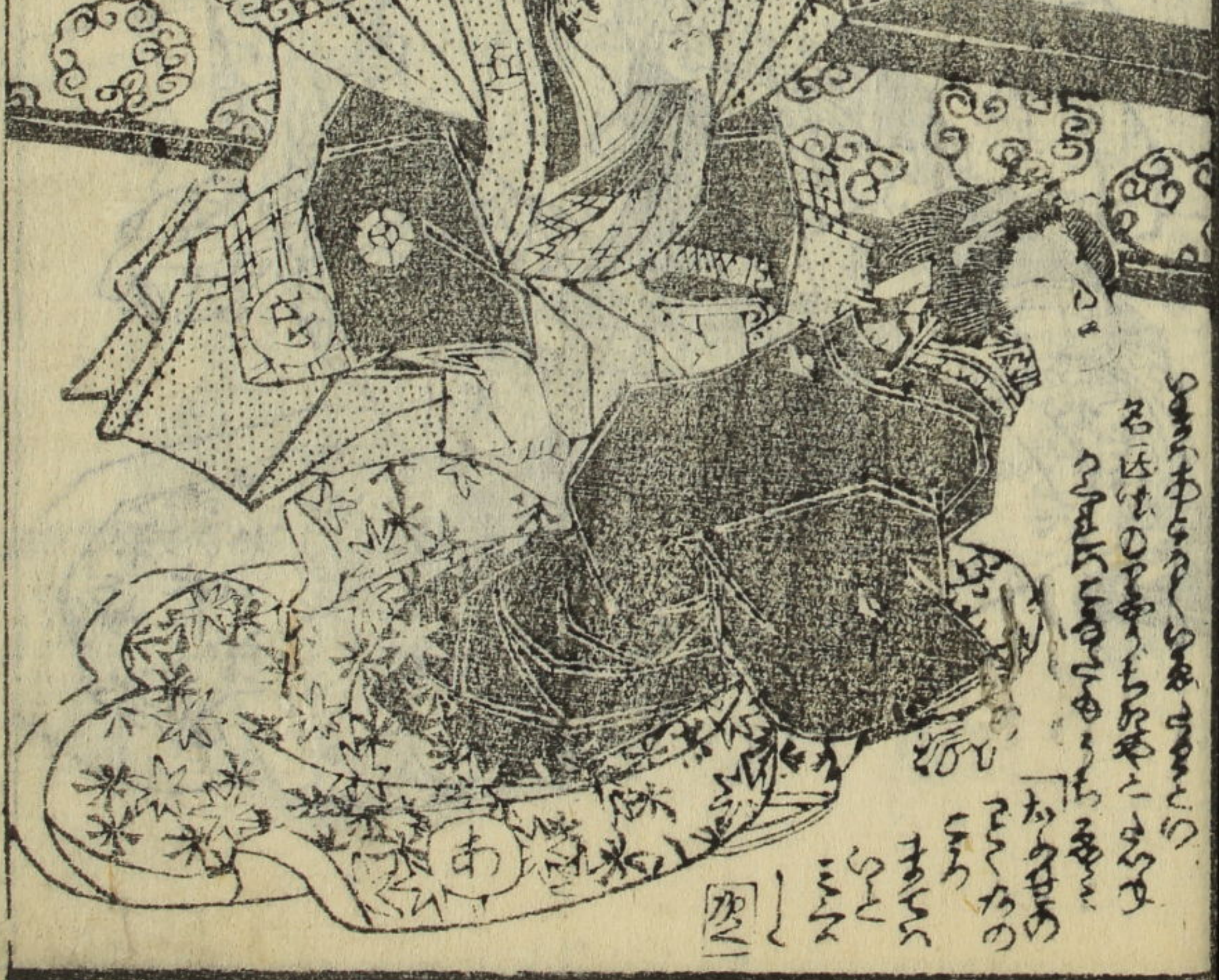
Reading passage in vertical Japanese text at the top of the right page.



Reading passage in vertical Japanese text at the bottom of the right page.



Reading passage in vertical Japanese text at the top of the left page.



Reading passage in vertical Japanese text at the bottom of the left page.

アヤウチサセ入の大多の人
アヤウチサセ入の人多し
アヤウチサセ入の人多し
アヤウチサセ入の人多し
アヤウチサセ入の人多し
アヤウチサセ入の人多し
アヤウチサセ入の人多し
アヤウチサセ入の人多し
アヤウチサセ入の人多し
アヤウチサセ入の人多し

朝鮮牛肉丸
大包全二朱
中包全一朱
小包百一銅
カ一ひおを補ひん
せいしよまをゆるマ
るれバヨムノマの人
久ふ用ひくより
對州下合きとせんり
アヤ 漆奇氏製



春水作國貞画



僕が編める草紙物語ハ多くハ倉卒の間ハ綴りバ作者法
唐漏る糸あがぬ書工の筆ハ誤らき刀工の鑿ハ過るを
先板下はく校訂あり又摺本あり再校を然るを本傳
十六編十七編の二帙の玉に頼りに書房の發兌を急ぎて
校合を経るころとわく製本做せし更は一あまのひ
誤字あり落字ありて看官亦こそ読悪くめ茲ハ青盛堂の
主人あり舊板残らば贖ひ得しとて余ハ続編を請ふに
例の二帙も周改めて俱ハ善本ハあまんとて婦幼等後
摺出せるを求めて疑ひを鮮あつとす

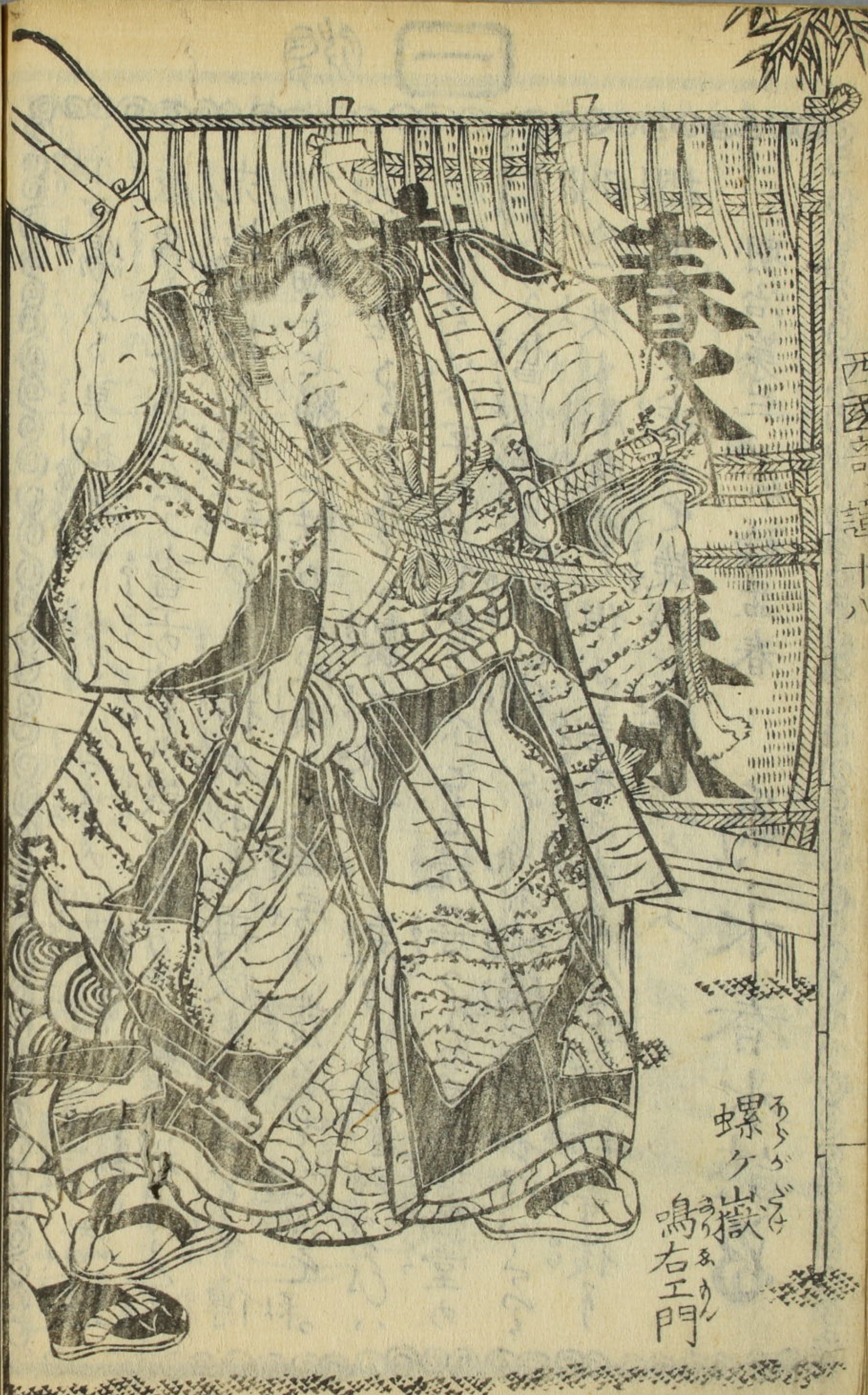
明治第三庚午稔孟春

為永春水誌



四准次妻
阿丸

二桐
四准次

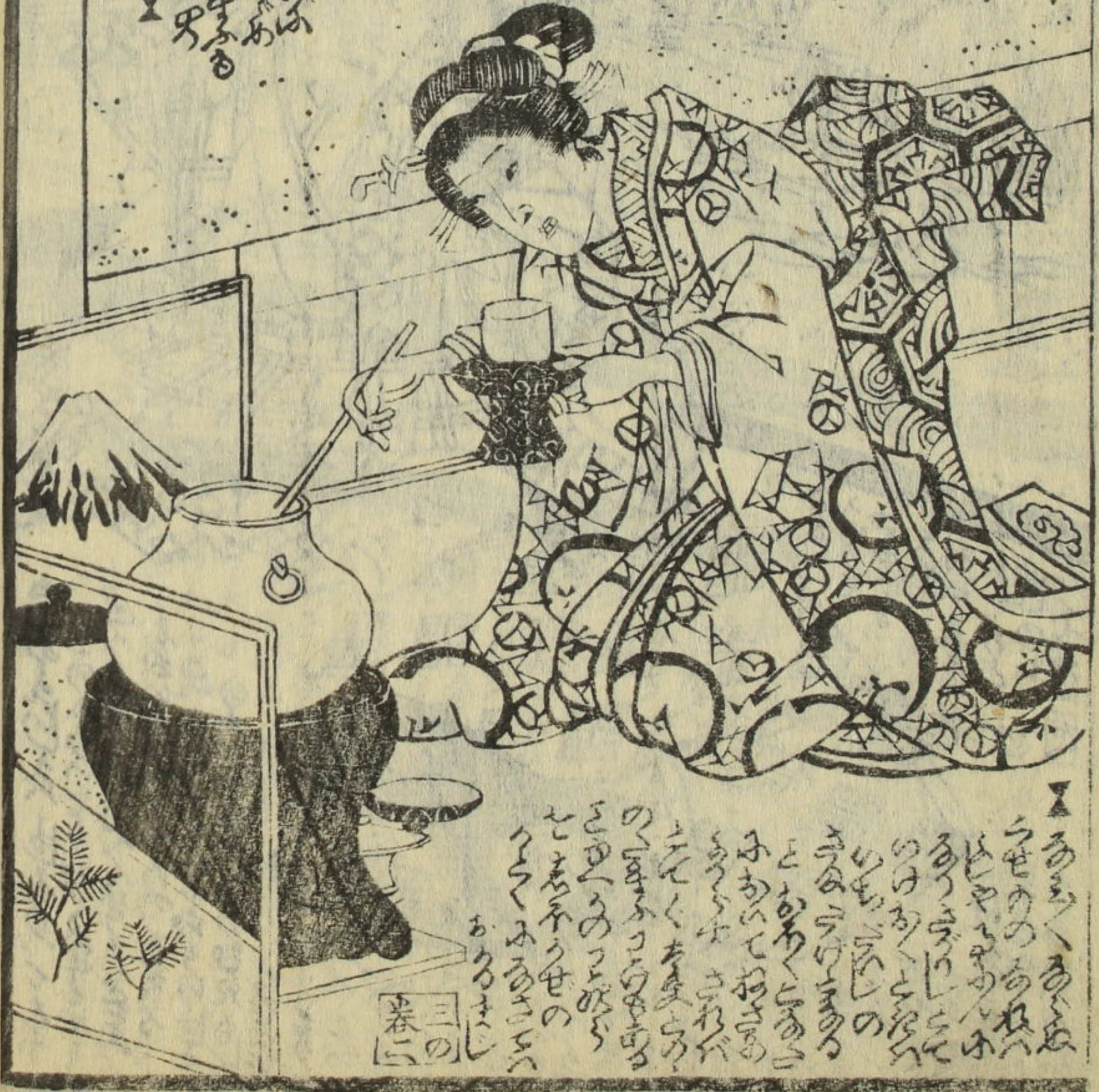


螺ヶ嶽
鳴右衛門

西國奇譚十八

春水作 芳虎画

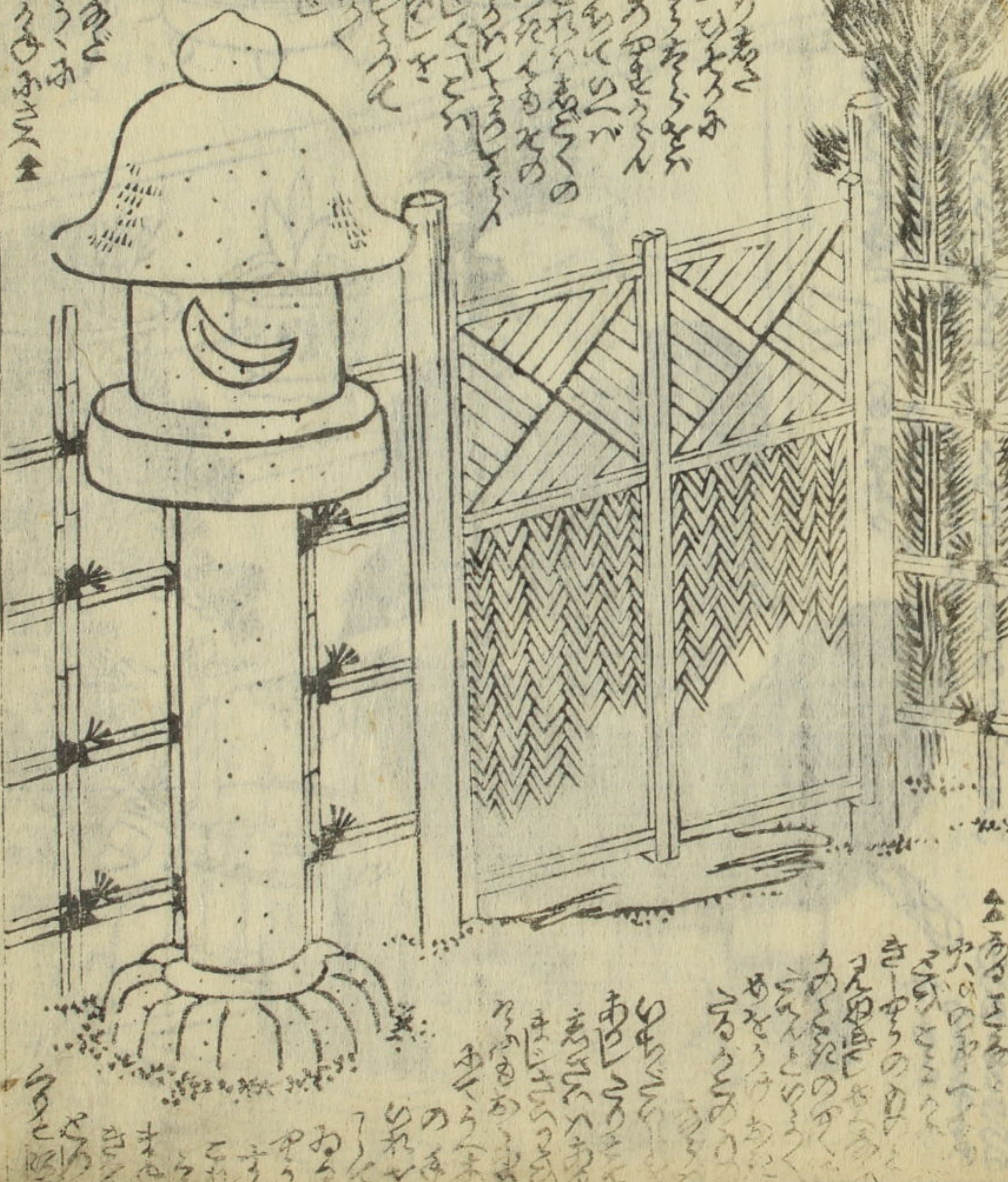
春水の芳虎画は、春の訪れを告げる象徴として、
 自然の美しさを表現し、人間の生活と調和させる意図が
 感じられる。画面には、春の気配を醸成する花や鳥の
 姿が描かれ、静寂の中にも生命力が溢れている。
 作者の繊細な筆致と、対象への深い観察力が、
 この作品に独特の味わいを添えている。



春の訪れを告げる象徴として、
 自然の美しさを表現し、人間の生活と調和させる意図が
 感じられる。画面には、春の気配を醸成する花や鳥の
 姿が描かれ、静寂の中にも生命力が溢れている。
 作者の繊細な筆致と、対象への深い観察力が、
 この作品に独特の味わいを添えている。

三
 春

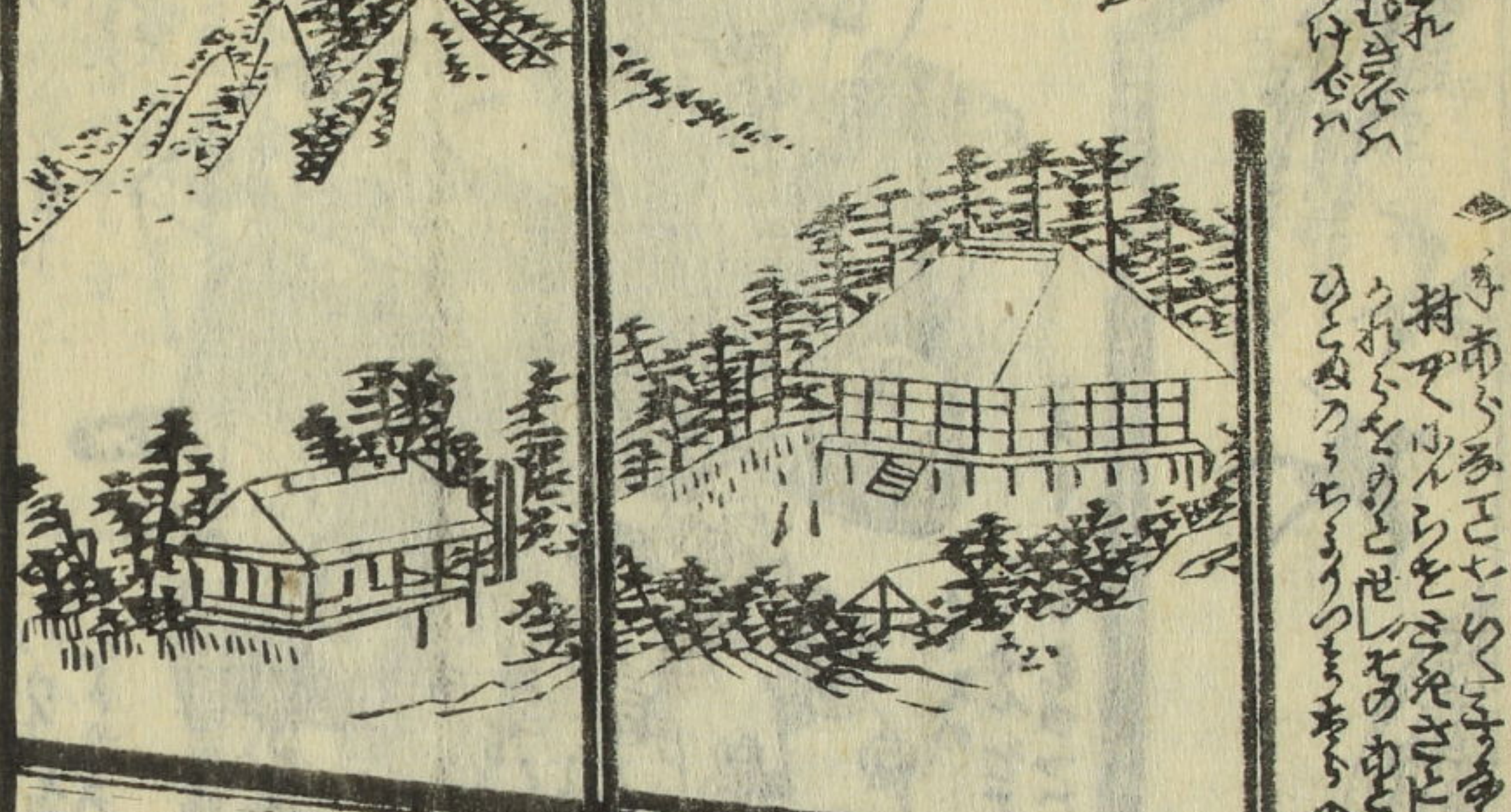
二の巻
 春の訪れを告げる象徴として、
 自然の美しさを表現し、人間の生活と調和させる意図が
 感じられる。画面には、春の気配を醸成する花や鳥の
 姿が描かれ、静寂の中にも生命力が溢れている。
 作者の繊細な筆致と、対象への深い観察力が、
 この作品に独特の味わいを添えている。



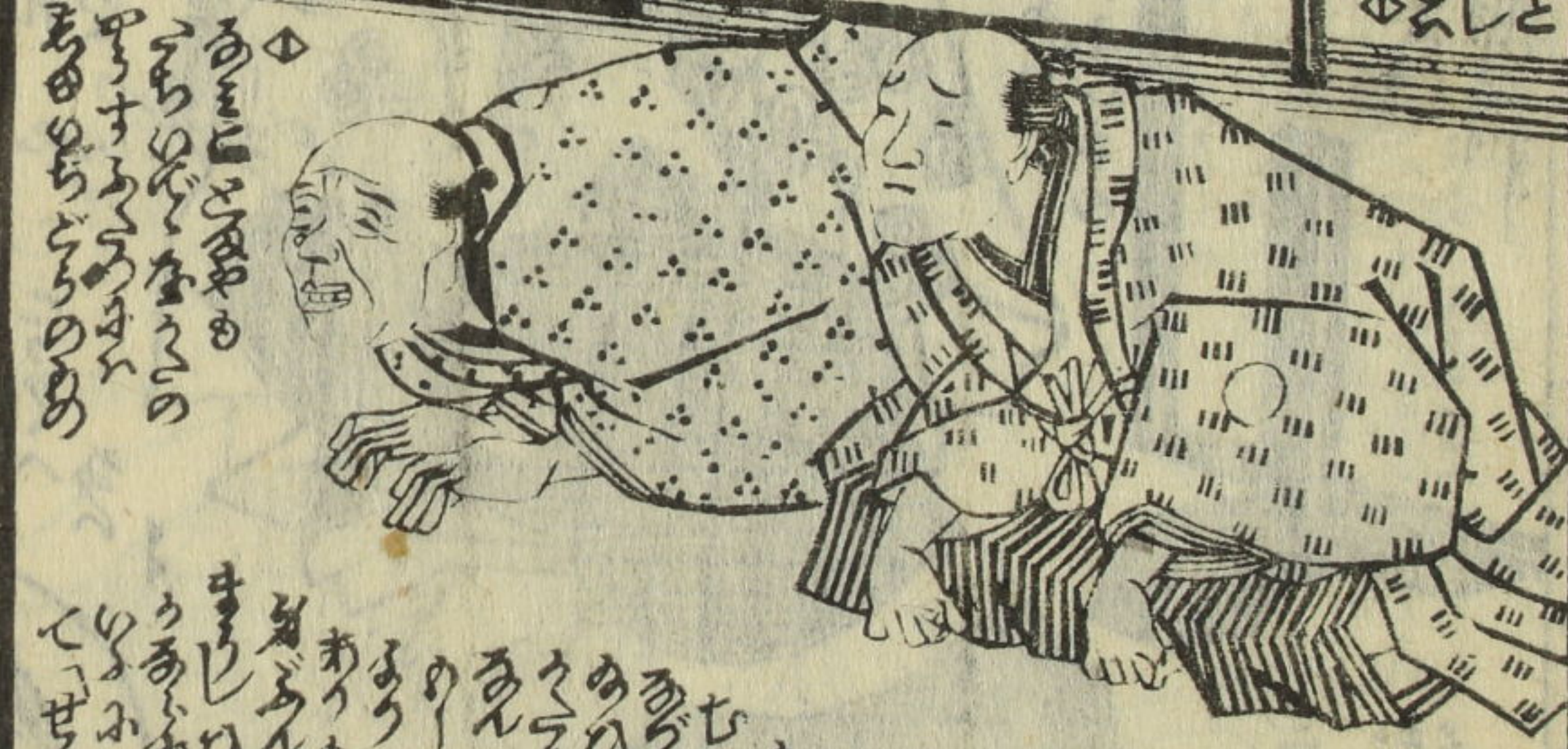
春の訪れを告げる象徴として、
 自然の美しさを表現し、人間の生活と調和させる意図が
 感じられる。画面には、春の気配を醸成する花や鳥の
 姿が描かれ、静寂の中にも生命力が溢れている。
 作者の繊細な筆致と、対象への深い観察力が、
 この作品に独特の味わいを添えている。



ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも



ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも

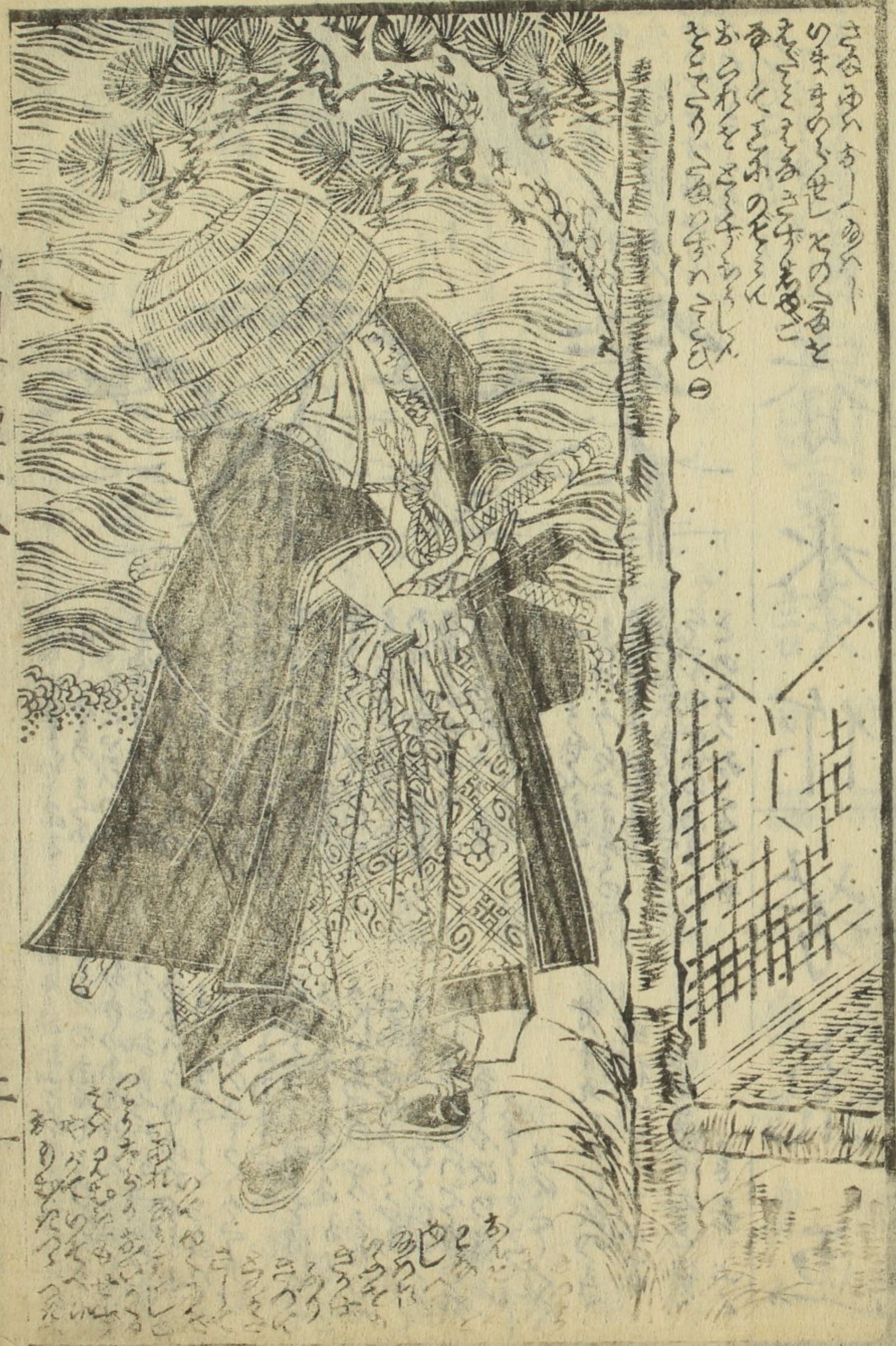


ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも

ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも



ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも
 ちやうどあれを
 うそおめいも



さるゆのかしんあつ
のまのしんせしそのあそ
そまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの

あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの



あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの

あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの

あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの
あそまのまのまのまのまの

あそまのまのまのまのまの

あそまのまのまのまのまの



朝鮮牛肉丸 大包金栗 中包金栗 小包銀栗
鮮一ひい補入考ん
其の妙す妙やく
るれいさう考すの
人つひふりひてふ
下谷さきせんや
對及 漆寄氏 襲

春水作芳虎画

春水の作は、
虎の画は、
此の巻の
中にも、
あり、
其の
妙す、
妙やく、
るれい、
さう考、
すの、
人つひ、
ふりひ、
てふ、
下谷、
さき、
せんや、
對及、
漆寄、
氏、
襲

春水の作は、
虎の画は、
此の巻の
中にも、
あり、
其の
妙す、
妙やく、
るれい、
さう考、
すの、
人つひ、
ふりひ、
てふ、
下谷、
さき、
せんや、
對及、
漆寄、
氏、
襲

新增補西國奇談

廿編 為永春水作
廿一編 齋芳虎画

薄緑娘白浪

九編 假名垣魯文作
十編 錦朝樓芳虎画

隅田川月と梅若

五編 柳亭種彦作
六編 山亭有人編次
孟春芳虎画

繪本太閤記

三編 孟齋芳虎画作

地本問屋 西國廣小路 加賀屋吉兵衛板

